

稚内市と南極とのかかわり

- 1956年 1月 南極観測に樺太犬による犬ぞりの使用が決定される。
- 3月 稚内公園に北海道内から30数頭の樺太犬が集められ、犬ぞりの訓練を行う。稚内出身の樺太犬もタロ・ジロを含め数頭いた。
- 11月 東京晴海ふ頭から南極観測船「宗谷」が南極に向けて出発。第1次南極観測隊員、乗組員のほか、樺太犬22頭(うち子犬2頭)が乗船。
- 1958年 2月 第2次隊を乗せた「宗谷」が南極付近に到着するが、天候の悪化と厚い氷に阻まれ、上陸を断念。なんとか第1次越冬隊員と「シロ子」とその子犬8頭を収容したが、残る15頭は、昭和基地付近に首輪でつながれたまま置き去りとなった。
- 1959年 1月14日 第3次隊が南極昭和基地でタロ・ジロを発見。タロとジロの兄弟犬の生還のニュースは、日本だけでなく世界中に伝えられた。
- 1960年 7月 稚内公園に「南極観測樺太犬訓練記念碑」が建つ。
- 1961年 10月 稚内公園に「南極地域学術観測隊樺太犬供養塔」が建てられ、この年から「樺太犬慰霊祭」と第1回目の「稚内みなとまつり」(現在は「稚内みなと南極まつり」)が行われている。
- 1982年 7月～ 映画「南極物語」のロケが稚内公園などで行われる。
- 1983年 7月 映画「南極物語」が封切られ、空前の大ヒットとなる。
- 1984年 3月 「第1回全国犬ぞり稚内大会」が開催される。
- 2004年 11月 市職員の近江幸秀さんが自治体職員としてはじめて南極観測隊に参加。(第46次庶務隊員)
- 2010年 11月 市職員の市川正和さんが南極観測隊に参加。(第52次庶務隊員) 東京晴海ふ頭から南極観測船「しらせ」に乗船し南極に向けて出発。

「南極観測船」

第1次南極観測隊を南極大陸に上陸させ、昭和基地の開設という大役を担った初代南極観測船「宗谷」は第6次までの6回にわたり南極観測に従事しました。「宗谷」の老朽化で打ち切られた南極観測を再開するために建造されたのが2代目南極観測船「ふじ」です。(第7～24次)その後、世界有数の大型砕氷船3代目南極観測船「しらせ」に南極観測任務をゆずりました。



現在は4代目南極観測船「しらせ(2代目)」にバトンを渡しています。(第51次～)

「樺太犬慰霊祭」

きびしい南極の自然の中でも、カー杯生きた犬たちのことを忘れないように、毎年8月の第1土曜日に樺太犬慰霊塔の前で「樺太犬慰霊祭」が行われています。市内の子どもたちが中心となり行われているこの慰霊祭。市民にとって永遠のヒーローであるタロ・ジロら樺太犬たちのことを次代へと語り伝えています。今年は8月6日(土) 11:00から稚内公園「樺太犬供養塔」前で行う予定です。



わがまち在住の南極観測隊OB(元南極観測隊)の方たちをご存知ですか？

高木知敬さん(第21、28次)、門馬勝彦さん(第21次)、稲川譲さん(第25、35次)、峯野秀美さん(第33次)、笹川則義さん(第42次)、近江幸秀さん(第46次)、市川正和さん(第52次)、日下稜さん(第52次)の8人がこの稚内市に在住されており、南極OB会北海道支部道北支会(南極OB会)として南極観測の意義や重要性などを自らの経験を交えながら伝える活動をしています。今回、「南極観測60年」を迎えるにあたり、市民のみなさんに稚内市と南極とのつながりや南極の魅力伝えようと60周年記念事業実行委員会の中心メンバーとして準備を進めています。

南極OB会



南極OB会北海道支部道北支会 市川正和さん

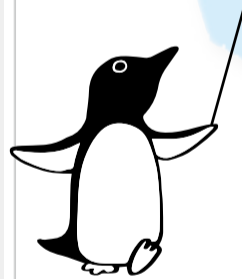
現在、稚内に在住の南極観測隊経験者は8人いますが、まちの人口に対する割合は日本一となっています。第1次隊で南極へ出発した樺太犬も稚内から6頭が選ばれており、我々OB会道北支会のメンバーは稚内を「南極観測隊のふるさと！」と想っています。

稚内市の出前講座による講演や、各種学習会を通して、南極の様子や南極で観測する意義、また、その観測結果によってわかったようになった地球環境の変化を、一人でも多くの方に紹介し、南極を身近に感じてもらうことを目的として活動しています。ご興味のある方はお気軽にお声掛けください。

南極観測って何のためにしているの？

南極は地球そのものの自然環境が残る唯一の場所と言われています。人間の生活の影響を受けない、汚れの少ない場所で色々な観測をし、その結果に基づき日本だけではなく世界中がどのように変化したのか、今後どうなっていくのかを予測しています。

研究しているものは、オーロラ、大気、雪や氷、生き物、岩石、海洋そして隕石などです。南極は国境のない大陸なので各国の観測隊が協力して観測したり、それぞれの観測結果を共有して新たな結果を見出すための研究をしています。過酷な自然環境の中での観測は厳しく、予測できない課題にぶつかることもあります。南極観測隊は毎日、継続的に観測を続けています。



私たちの生活に深く関わっている南極観測。7月2日はこの南極観測を行っている「国立極地研究所」の白石所長をお招きして南極観測について詳しく教えていただきます。皆様のご来場をお待ちしています！

青少年科学館にはお宝がいっぱい！

稚内市青少年科学館では南極観測に関する貴重な資料を展示しています。第1次隊、第10次隊等が使用した居住棟や平成20年に退役した南極観測船「しらせ」(初代しらせ)のスクリーブレード(4枚羽のうち1枚)を含め、たくさんの資料があります。特に、第1次隊の居住棟(正式には無線棟)は、日本が初めて南極観測に参加した時、未知の厳しい気象条件に耐えられるよう、また、専門の人でなくても簡単に建



てられるよう考案された、日本初の『パネル組み立て式』(プレハブ建築)の建物で、現在は南極昭和基地と稚内市青少年科学館にしか残されていない学術的にも大変貴重な資料です。

青少年科学館では南極観測の意義・目的を伝えながら地球環境問題に取り組んでいます。興味深い資料がたくさんありますので皆さんぜひご来館ください。



青少年科学館では南極観測の意義・目的を伝えながら地球環境問題に取り組んでいます。興味深い資料がたくさんありますので皆さんぜひご来館ください。

稚内市青少年科学館

- 住所/稚内市ノシャップ2丁目2番16号 ☎22-5100
- 昭和49年、青少年の科学教育の振興のために「ノシャップ寒流水族館」と隣接して建設。プラネタリウムや天文台を利用して天文知識を学べるほか、科学展示や再生可能エネルギーについて学べる環境展示も常設しています。
- 水族館と共通の「1年間何度でも入館できる」お得な年間入館券も発行しています。

(公財)日本極地研究振興会稚内支部

(公財)日本極地研究振興会稚内支部は、東京に本部を持つ公益財団法人日本極地研究振興会の日本で唯一の支部です。

極地、特に南極に関する情報や資料を収集するほか、講演会等の開催を通して、極地研究の目的や人と自然の共生について市民の皆さんに広く理解してもらうことを目的に活動しています。

南極観測隊OBも所属しており、過去には「南極越冬体験キャンプ」を開催し、南極昭和基地との電話交信などを通して、南極観測の意義や南極生活の様子を多くの方に伝えてきました。

「南極を次世代に語り継いでいきたい。」その想いで現在も、各種講演会やセミナーを開催するほか、毎年2月にはキタカラビル前の駅前広場にイグルーやアイスキャンデルを制作するなど、活動を続けています。